

福井県自然保護センター(1/2)

自然保護センターは
 「郷土の自然を感じたい、知りたい、そして考えたい」
 そんなあなたを応援します。



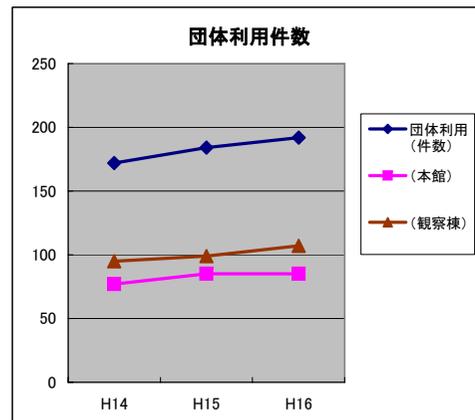
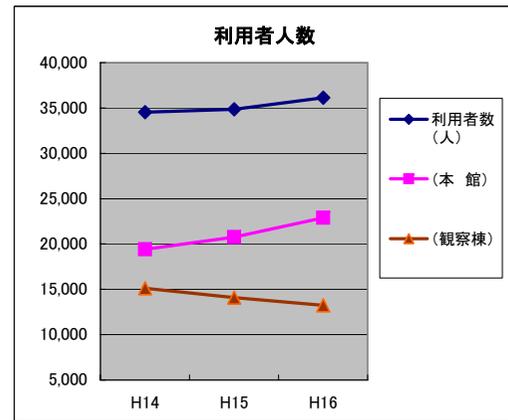
所在地	大野市南六呂師169-11-2		
設置年月日	平成2年7月12日		
施設の種類	展示・体験施設	施設管理主体	県
設置の目的	自然保護思想の普及を図り、もって県民の文化の向上に寄与することを目的としています。		
概要 (構造、面積、主な機能)	(本館)木造・鉄筋コンクリート混構造3階建、地下1階、地上2階、延べ2,111㎡ (観察棟)鉄筋コンクリート3階建、延べ418㎡ (本館)展示場、レクチャーホール、工作室 (観察棟)プラネタリウム室:定員44名、天体観察室:80cm反射望遠鏡		
職員数	正職員7人、非常勤嘱託2人 アルバイト2人 計11人		

利用状況等

	H14	H15	H16
利用者数(人)	34,526	34,844	36,136
(本館)	19,426	20,746	22,905
(観察棟)	15,100	14,098	13,231

利用者負担(利用料金)等

入館料	大人	無料
	高校・大学生	無料
	小・中学生	無料



利用状況の推移
 平成14年度末に本館展示が更新され、平成15年から16年にかけては利用者数に約3.7%の伸びが見られました。
 また、団体による利用についても、件数は、本館、観察棟ともに増加しています。

16年度の特徴について

自然保護センターで行っている事業

展示事業 自然保護に関する情報や調査研究、資料収集の成果を公開



資料収集事業 自然に関する標本や文献、視聴覚資料等の収集保管

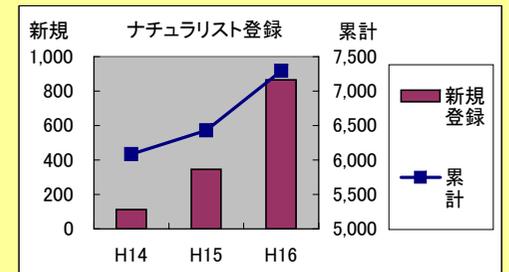
指導普及事業 自然を学び、自然と共存しようとする動機付けの場の提供
 (自然観察会、天体観望会、プラネタリウム、傷病鳥獣救護等)



事業実績

研修養成事業 自然保護に関心を持つ県民を養成
 (ナチュラリスト登録、普及誌の発行等)

調査研究事業 自然環境を把握し、保護の基礎資料とするために各種調査、研究を実施
 (重要里地里山保全・活用対策、渡り鳥保全調査、統合一元化事業等)



調査研究

・福井県重要里地里山保全・活用対策事業

希少野生生物の生息調査を実施し、その結果をもとに県内の重要里地里山30ヶ所を選定、公表

・統合一元化事業(環境省から受託)

自然情報を統合一元化して解析し、地域毎の自然的資源の特性を明確化するとともに、各地域における生態系の特性と保全のための基礎情報を提示

・鳥獣害のない里づくり推進事業

イノシシ、シカ等による鳥獣害に関連する基礎資料として各種情報を分析

福井県自然保護センター(2/2)

行政コスト計算書(平成16年度) (単位 千円)

		総額	構成比
人にかかるコスト	人件費	73,886	40.0%
	退職給与引当金繰入	▲1,968	-1.1%
	計	71,918	38.9%
物にかかるコスト	物件費	48,431	26.2%
	維持補修費	9,535	5.2%
	減価償却費	53,572	29.0%
	計	111,538	60.4%
その他	公債費(利子)	1,456	0.8%
	その他	0	-0.1%
	計	1,456	0.7%
合計		184,912	100.0%

バランスシート(平成17年3月31日現在) (単位 千円)

借方		貸方	
資産		負債	
有形固定資産	744,543	固定負債	265,210
投資等	0	流動負債	1,255
流動資産	0	正味資産	478,078
計	744,543	計	744,543

(単位 千円)

収入	利用料等収入	9	0.0%
	その他収入	427	0.2%
	一般財源	184,476	99.8%

利用料等収入計	9,000 円
利用者1人あたり平均利用料	0 円
利用者1人あたりコスト	5,117 円

利用者1人あたりのコスト負担の状況



バランスシート、行政コスト計算書の特色

物にかかるコストが全体の60%を占めていますが、減価償却費を除いた場合の、物件費、維持補修費では全体の31%となっています。なお、今回が初めて調査・作成した施設なので前年度比較はしていません。



施設の特徴

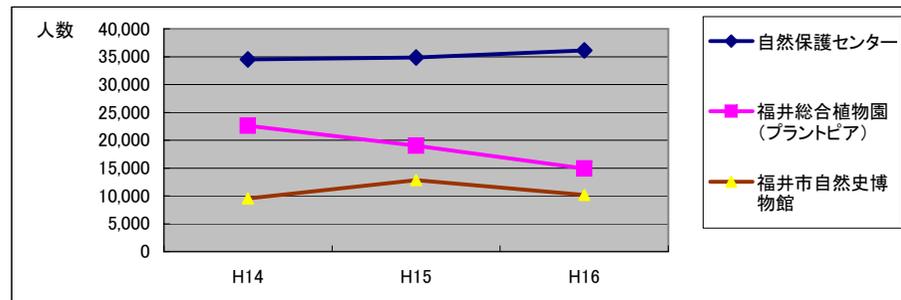
展示の目的

地域の自然の素晴らしさ、楽しさを発信し、広く県民の中に、自然に親しみ、自然を大切にすることを育んできました。平成14年度末の展示の一新においては、世界的な課題となっている生物多様性保全の問題について重点的に取り上げています。

今後の課題

さらに利用者増を図るため、引き続きホームページやマスコミなどを利用した情報発信を行うとともに、県民ニーズに沿った企画内容の拡大・充実に取り組むことが課題です。

自然史系の類似施設の入館者数比較



今後の事業方針

自然観察会、天体観望会、リーダー養成講習会、標本展示、資料収集など各種事業を県民ニーズを踏まえながら着実に実施するとともに、クマ、イノシシ、シカ等への対策など、自然との共生に向けた今日的課題を解決するための調査研究を推進します。

取組内容

ツキノワグマ広域調査事業

ツキノワグマによる人身被害を防止し人との共存を図るために、クマの行動や生息状況、生息環境に関する情報を収集し解析することにより、クマの出没予測を行うとともに、専門の知識を有する職員を育成し、的確な対策を講じます。